



一人合唱練習を楽しんでいます

久喜混声合唱団&男声あんさんぶる「ポパイ」佐野 幸雄

『おんがく広場』発行人の加藤さんと同じ埼玉県久喜市で活動している混声合唱団と春日部市の男声合唱団に所属しています。

中学から合唱を始め合唱歴は40年以上です。どちらの団も3月から練習休止でもう2か月合唱をしていません。コロナを早く収束に向かわせるためにも今は我慢の時ですが、休日に一人でも合唱の練習ができないかと思い、ネットを検索して面白いアプリを見つけました。

自分の声を多重録音して一人でアカペラコーラスビデオを比較的簡単に作れてしまうもので、iOSのAcapella from PicPlayPostというアプリです。本格的に使うには有料ですが、30秒程度で個人の発声練習代わりに使うのであれば無料のままでも十分使えると思えました。

例えば発声練習。カデンツで、最初にドの音を吹き込んで、その後にソ(5度)、その後にミ(3度)、最後に上のドの音を吹き込めばハーモニーのバランスと音程を掴む練習になります。口の形も色々変えると効果的です。

また練習中の曲で苦手な部分を音取り用のミニキーボードで弾いて録音すれば、音取りに合わせて何度も練習することができます。もちろん自分の声で複数パートを録音して、ひとり合唱を楽しむこともできます。アイデアしだいで色々な練習ができそうです。

やってみると自分の声でもしっかりとハモらせるのは意外に難しい。もっと難しいのはユニゾンだったり、プレスのタイミングがいい加減だったり。ビデオで自分の歌っている表情も確認できるので普段の練習では気づきにくい自分の粗がよくわかります(苦笑)。

このアプリに必要なのはスマホ(iPhone)とiPhoneに標準でついているマイク付きイヤホンだけです。ご興味を持たれた方は探してみてください。私は本格的に使ってみたくなり、結局購入してしまいました。Android版も試してみましたが、インストールしようとする、このバージョンでは使えませんとエラーになります。最新のOSバージョンに対応していないようです。またネットの書き込みをみるとAndroid版はイマイチ評判悪いです。力を入れてないのででしょうか。ということで、iPhoneまたはiPadユーザーにはおすすめです。

■ 全日本吹奏楽連盟の動き ■

吹奏楽の世界が動き出しました。秋のコンクール・小学生バンドフェスティバル・マーチングコンテスト開催について、緊急事態宣言が解除される5/6までに政府や専門家の発表を注視した上で、開催の可否について判断するとしています。決定内容は5/11までに全日本吹奏楽連盟ホームページに告知されます。

(加藤良一)

未知の世界へ

合唱団パリンカ常任指揮者 千葉 敏行

東日本大震災後、音楽は灯となりました。合唱は人の力となりました。合唱は新しい時代に入ったはずでした。しかし、コロナにより、私たちの合唱活動は休止状態。誰がこんなに長きにわたると予想したでしょうか。そして、その夜明けは光すら見えません。

6月28日に創団30周年記念演奏会を行うはずだった合唱団パリンカ。東日本大震災から間もなく10年、震災後の合唱活動と合唱作品を振り返り、未来を模索するはずでした。しかし、その模索する未来も、現在も全く変わってしまいました。

2月下旬以降、多くの合唱団が練習を見合わせ、休止していたにもかかわらず、ひっそり練習を継続していた合唱団もあったようです。しかし、岐阜ショックにより、ほぼすべての合唱団が活動を止めました。三密の問題点は知られていたが、対岸の火事であったわけです。

そのころからでしょうか、意欲的な合唱人や音楽家はオンラインで様々な実験と実践を始めました。ここで分かったのは、合唱は思いのほかオンラインと相性が良いということです。楽器ならば防音施設がなければ演奏は難しく、学生の吹奏楽団だと、個人持ちの楽器が多いから自宅での演奏は難しいわけです。

いつの日か再開するために、意欲を維持し、力を蓄えるために、SNSでの情報発信、演奏の配信、オンラインによる交流や学習、練習の模索は極めて有効であろうし、それしかないと考えています。

合唱は、息と心を合わせ、歌い合っただけの合唱です。マスクをして、ソーシャルディスタンスを保って合唱して何が楽しいのだろう。換気を心掛ければ音響も低下し、そんな中歌って喉も疲れます。休憩時間のおしゃべり、おやつ、喫煙、練習後の飲酒のない合唱活動は何が面白いのでしょうか。所詮、「継続信仰」と「使命感」、そして「自己満足」に他なりません。しかし、そうやって再開しなければならぬ日が確実にやってきます。どのように再開すればよいのか、その情報交換とより良い方法の模索を継続しなければなりません。

コロナ終息後、いかに合唱活動を盛り上げるかを考えなければなりません。長期間引きこもった合唱人が全員合唱活動に復帰するはずもなく、合唱人口の減少や合唱団の存続、合唱連盟の収入減・・・などなどマイナスのスパイラルが避けられないからです。活動停止期間が長くなればなるほど、計り知れないダメージとなります。私たちは、未だ経験したことのない未知の危機にいることを自覚しなければなりません。

